茨城県教育研究会

会報

第155号

〈学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた特色ある教育課程の評価及び改善〉

特集　「本年度の事業の反省・県外派遣研修報告」

平成23年2月23日
茨城県教育研究会
代表者　長澤　勤
事務局　水戸市大場町933-1
教育プラザいばらき内
TEL 029-269-1300
FAX 029-269-1304

「ピア・サポート　トレーニング」（常総市立水海道中学校）

生徒の力は無限大

茨城県教育研究会副会長
大滝　茂

常総市立水海道中学校では平成十八年度からピアサポート活動を推進している。当初は生徒会役員に限定しての活動ではあったが、年々活動の範囲を広め現在では役員、全学年の学級委員、そして希望者が参加しており本年度は約百名の生徒が参加している。全校生の四分の一が参加していることになる。生徒会活動の一環として位置付けているので生徒会総会で活動内容を説明し参加者を募集している。三年間継続して参加している生徒も多い。参加者に対して六月にオリエンテーションを実施し夏季休業中にトレーニングを開始する。前年度経験している生徒は担当教師のよきアシスタントになる。例年トレーニングを受けた生徒（本校ではピア・レンジャーという）は二学期から実践的な活動に入り定期的にサポーター会議を開催し活動の総括や反省のための話し合いをもっている。さらに活動の成果を見るために一般の生徒へのアンケート調査を実施している。リーダーの養成を主な目的としてきたが、本年度は教育相談のトレーニングに特に力を入れている。幸いにも生徒会担当教員の一人が教育相談で内留する機会を得たので、十月以降月二回の本校での現地研修の際に研修の成果を発揮して定期的にピア・レンジャーの学習会を実施している。本日は九回目の学習会で、一対二のロールプレイを楽しそうに学び実践している。受験も間近い三年生も何名か参加しているのもたのもしい。夏季休業中から積極的に、意欲的に参加している生徒たちを見ていると、いじめのない、孤立する生徒などいない人間関係が構築できるのではないかと期待がふくらんでくる。

生徒たちのもっている無限の可能性を何とか引き出し伸ばしてやろうとする先生方と、生徒たちのパワーが一つになればもっともっとすばらしい学校になると確信している。

第62回 茨城県教育振興大会並びに研修会

平成23年2月3日（木）茨城県立県民文化センター

- ○ 永年勤続功労者への感謝状・記念品の贈呈
- ○ 教育論文優秀者の表彰
- ○ 宣言決議
- ○ 教育論文の発表
- ○ 児童生徒・教職員の発表

大会宣言

茨城県学校長会と茨城県教育研究会は、永年にわたり互いに連携しながら、本県教育の充実・発展に鋭意努力を積み重ね、着実にその成果を上げてきた。

今日、子どもを取り巻く社会の急激な変化の中で、学校には、人間尊重の教育を基盤とし、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和を重視した『生きる力』を育成することが求められている。

このときに当たり、私たちは、社会の求めと自らの使命に真摯に向き合い、一人一人の夢をはぐくみ、創意と活力に満ちた学校づくりを推進して、教育の真価を示さなければならない。

本県学校長会と教育研究会は、教育基本法、新学習指導要領及び本県教育の目標を踏まえ、未来を拓くたくましい子どもの育成に英知と情熱を注ぎ、県民の信頼と期待に応えていく決意である。

記

一　学校の教育課題と方策を明確にして、その速やかな解決に努めるとともに、創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善を図る。

一　基礎・基本の確実な習得と活用、思考力・判断力・表現力の育成、学ぶ意欲の向上など、新学習指導要領の重点に迫る教育活動の展開に努める。

一　我が国の伝統と文化を尊重し、言語活動、道徳教育や理数教育の充実を図るなど、今日的課題に対応した教育活動を推進する。

一　家庭や地域社会と協働して、子どもの安全・安心を確保するとともに、基本的な生活習慣や学習習慣の確立、規範意識の高揚、公共心の育成に努める。

一　子どもと向き合う環境づくりに努めるとともに、教育の専門家として、情熱をもって研究と修養に励み、広く社会の信頼に応える。

平成二十三年二月三日

茨城県学校長会
茨城県教育研究会

児童生徒・教職員の発表

居心地のよい学校をめざして

筑西市立下館中学校
一・二・三年生　冨田　優希乃　外三十名

私たちの学校は「力のある人間となれ」を教育目標に、めざす学校の姿を「明るい学校」「きれいな学校」「楽しい学校」「地域に開かれた学校」とし、『誇れる母校づくり』のために、『種をまく人になろう』を合言葉に、私たち生徒と先生方が一緒になって努力しています。

今日は、私たち下館中学校生徒会が、生徒一人一人にとって居心地のよい学校づくりをめざして取り組んでいる活動について紹介します。

平成二十一年度全国中学校空手道大会　第五位

空手道の演武

取手市立取手第二中学校
一・二・三年生　籾山　和哉　外十三名

本校空手道部は、県内で唯一の中学校空手道部活動です。取手市空手道連盟の支援を受け、中学校における空手道部として活動を開始したものであり、これまで全国中学生空手道大会に、十一年連続出場の実績と伝統があります。本年度は宮城県仙台市で開催された全国中学生空手道大会で、男子団体組手（くみて）において、これまでの最高位となる五位に入賞しました。現在、部員数は男子十名、女子四名の計十四名で活動しています。目標は全国制覇です。

あいさつ

茨城県学校長会
茨城県教育研究会
会長　長澤　勤

第六十二回茨城県教育振興大会に当たり、ご多用の中を茨城県知事橋本昌様はじめ多くの来賓の皆様のご臨席を賜り、盛大に開催できますことに心より感謝申し上げます。

また、皆様方には日頃より教育の振興に多大なるご尽力をいただいておりますことに衷心より御礼を申し上げます。

この度、永年にわたり児童生徒の教育に携わり、本県教育の充実発展に寄与されてこられましたご功績により感謝状を受けられます百十二名の会員の皆様に心から感謝とお祝いを申し上げます。

さて、昨今、社会情勢の急激な変化と相まって、教育を取り巻く環境や情勢も大変混沌としてまいりました。

学力や体力のより一層の向上、規範意識の醸成、いじめや不登校はじめ生徒指導上の問題の解消、望ましい人間関係の構築など、学校の教育活動を通して改善を図っていかなければならないことが山積しております。

加えて、近年は、携帯電話やインターネット普及に伴う健全な成長を阻害する情報の氾濫、保護者の学校に対する過度な要求への対応、給食費の未納問題等々、学校の教育力だけでは解決が困難な状況を呈しております。

厳しい教育環境にありますが、私共は社会の求めと自らの使命に真摯に向き合い、将来を担っていく子どもたちのために創意と活力に満ちた学校をつくっていかなければなりません。

学校には、これまで以上に人間尊重の教育を基盤として、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和を重視した『生きる力』を育成することが求められており、この実現のための新教育課程の適切な編成と実施は喫緊の課題であります。

約四十年ぶりに学習内容や授業時数が増えることは私共にとって初めての経験となりますが、社会の全ての根幹となるのが教育という営みですので、学習内容が子どもたちに確実に身に付くよう全力を挙げて取り組んでいかなければなりません。

このような状況の下、国では二十三年度から小学一年生に三十五人の学級編制を適用し、県においても厳しい財政状況の中、小学二年生から四年生、中学一年生を対象に引き続き学級の弾力化編制が継続されることになりました。

この施策は、一人一人の子どもたちに対する、ていねいなかかわりを可能とした点で大変意義深いことであり、今後とも学級編制の少人数化が促進されることを願うものであります。

来年度、県学校長会は創立六十四周年、そして県教育研究会は創立五十周年の記念すべき節目の年を迎えます。

外部からの指示ではなく、自らの意志で内部から学校を変えていく『学校からの教育改革』と、言うべきことはきちんと言い、やるべきことはきちんとやる『有言実行』をキーワードに、充実した教育活動を展開し、茨城の教育の更なる推進を目指してまいりましょう。

最後になりましたが、本日、教育実践の成果を発表していただく先生方や児童生徒の皆さんに感謝を申し上げますとともに、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様の学校に対する変わらぬご理解・ご協力のお願いを申し上げまして挨拶といたします。

平成二十一年度全国チームウォークランキング　第二位
あしながPウォーク10
鹿嶋市立鹿野中学校
二年生　飯塚　日向子　外六名

鹿野中学校では、生徒会が主体となりあしなが育英会のご協力の下、交通遺児救済のための募金活動を行っています。そして、十一月の地域公開で、あしながPウォーク10を実施しています。Pウォークとは遺児学生の方が企画した約十㎞のコースを国内外の遺児のことを考えながら歩くことで、「優しい人間愛社会（フィランソロピー）」を広げるためのウォークです。本校では、平成十一年から実施しています。活動の様子を紹介します。

平成二十二年度「国語単元学習の創造」Ⅳ中学校編（東洋館出版社）掲載
話合いを通して自分のものの見方や
考え方を深めたり広げたりする指導の工夫
大洗町立南中学校
教諭　江頭　久美子

本研究は国語科で、自分で立てた課題を解決するという学習と話合いによって友達同士が学び合うという場を通して、自分のものの見方や考え方を深めたり広げたりすることを目標としています。具体的には生徒一人一人が活発に話合いのできる場の設定、学習計画の工夫によって自分の考えをもち、他者の関わりの中でそれを深めながら、論理的思考力、表現力、理解力、想像力などの育成に努めていることを発表します。

平成二十年度　国民文化祭で発表
西金砂神社・田楽舞
常陸太田市立金砂郷小学校
六年生　寺沼　哲　外十八名

本校で取り組んでいる伝統文化活動の一つ、西金砂神社に伝わる田楽舞を紹介します。本校は、平成二十年に、二つの学校が統合しました。その一年目に国民文化祭でこの舞を披露することができました。この舞は、「四方固め」「獅子舞」「種蒔き」「一本高足」の四つの舞で構成され、五穀豊穣・天下泰平を願い、千年以上も前から地域に伝承されている県指定の文化財です。今日は、四つの舞それぞれの一部を紹介します。田楽師の方々、鳴り物師の方々の協力を得て一生懸命舞います。

平成22年度第45回教育論文表彰並びに発表

茨城県教育研究会主催、茨城県教育委員会後援による第四十五回教育論文の表彰式が、平成二十三年二月三日（木）に開催された茨城県教育振興大会の中で、盛大に執り行われました。

倉持みち代教育論文委員長による審査経過報告の後、表彰が行われました。優秀賞（五点）、優良賞（二十三点）、佳作（二十四点）の受賞者は、以下のとおりです。

表彰式に続いて、優秀賞を代表して、常総市立水海道中学校の堀邉英明教諭と結城郡八千代町立下結城小学校の横瀬郁子教諭が論文発表を行いました。

【優秀賞】

（茨城県知事賞・茨城県教育研究会長賞）

1　体育・保健体育
状況判断とサポートの学習保障に向けた教材開発
～中学1年生のサッカーを対象に～
常総・水海道中　教諭　堀邉　英明

（茨城県議会議長賞・茨城県教育研究会長賞）

2　算数・数学
算数科から広がる読解力の育成を目指した学習指導
～数量関係を表すグラフ活用の指導を通して～
結郡・下結城小　教諭　横瀬　郁子

（茨城県教育委員会教育長賞・茨城県教育研究会長賞）

3　社会
よりよい社会づくりに主体的に参画していく資質や能力を育成する社会科学習の在り方～協働思考によるチーム学習と価値判断・意思決定のプロセスを振り返り学びがいを表現する小中学校の実践を通して～
稲郡・木原小　教諭　森　浩美

4　理科
生徒一人一人の学ぶ意欲を高める理科学習指導の在り方
～学習教材の開発と指導方法の工夫改善を通して～
日・多賀中　教諭　正木　啓道

5　特別活動
望ましい人間関係を築き、主体的・実践的態度を育てる特別活動の展開～児童の規範意識を高め、よりよい生活や人間関係づくりをめざして～
稲郡・生板小　教諭　栗山　美智子

【優良賞】

（茨城県教育研究会長賞）

1　学習指導
学ぶ意欲を高める指導のあり方～生徒の主体的で協同的な学びを促す小グループ活動を通して～
坂・南中　校長　野本　猛　外　全職員

2　学習指導
児童の言語力を育てるための指導法の研究～根拠のある自分の考えをもち、筋道を立てて表現する活動を中心として～
稲市・君賀小　校長　中島　誠一　外　全職員

3　国語
読んで考えて書く力を育てる国語科学習の指導
～文学的な文章及び説明的な文章における比べ読みの工夫を通して～
桜・岩瀬小　教諭　安達　和宏

4　国語
児童一人一人の活用する力を育む読みの指導の工夫
～筆者の論証をもとに、児童が結論を作る読みの活動を通して～
常太・水府小　教諭　渡邉　護

5　国語
主体的な聞き手を育てる国語科学習指導のあり方～「大村はま国語教室」の実践記録を手がかりにした小学校第3学年におけるインタビュー学習の授業実践を通して～
常総・水海道小　教諭　染谷　広美

6　社会
調べて考える力を育てる社会科学習指導の在り方～第4学年「古い道具と昔のくらし」における導入の工夫や話し合い活動を通して～
桜・雨引小　教諭　柳橋　俊広

7　社会
確かな学力を身につけ、楽しく学ぶ社会科の学習指導の工夫～言語活動に関する単元開発や指導方法、教材の工夫を通して～
水・第一中　教諭　竹貫　裕文

8　算数・数学
学ぶ楽しさ、できる喜びを味わえる授業をめざして～知識・技能の確実な定着と自己の考えを深めようとする児童の育成～
教諭　絵幡　清一　外　全職員

9　算数・数学
数学的な表現力を育成する数学科学習指導のあり方～中学校第2学年「三角形と四角形」「確率」における説明する活動を通して～
常太・太田中　教諭　興野　聖人

10　算数・数学
活用する力をはぐくむ算数科学習指導の在り方～日常の事象と算数を関連付ける体験的な学習と算数ミニレポート作りを通して～
日・宮田小　教諭　中嶋　由佳

11　理科
生徒指導の機能を生かした理科学習指導の在り方～第1学年の物理分野における「数理的な障壁」の解消を目指した補充課題の導入を通して～
常太・瑞竜中　教諭　山崎　誠

12　図画工作・美術
夢を見め、自己実現を目指す子どもを育てる美術教育の在り方～中学校第2学年「ねがいをかなえるお守り」において、主題を生み出せると共に「共通事項」の視点から指導・援助するための「制作カルテ」の活用を通して～
古・古河二中　教諭　光山　明

13　体育・保健体育
一人一人が活躍する学習指導の在り方～ボールを持たないときの動きに着目したサッカーの授業を通して～
常太・瑞竜中　教諭　木谷　晋平

14　総合的な学習の時間
人との関わりを通して、自ら感じ取り自分の思いや考えを表現する力を育てる総合的な学習の時間の在り方
～第6学年「なつめファーム　大プロジェクト～野菜を作り販売しよう～」の実践を通して～
坂・飯島小　教諭　中村　研一

15　道徳
自作資料をもとに、思いやりの心の扉を開く道徳教育
～要としての「道徳の時間」の深化を図る継続的実践～
坂・杏掛小　教諭　関塚　滋

16　道徳
命を大切にする心をはぐくむ道徳教育の実践
～道徳学習プログラムの作成と実践を通して～
日・諏訪小　教諭　川野邊　和　外　全職員

17　キャリア教育
人とのかかわりを大切にした体験学習を通して、自らを見つめ、目標に向かって努力する態度を育てる指導の在り方
～小学校における2年間のキャリア教育の実践～
鉾・舟木小　教諭　関根　康裕

18　人権教育
思いやりをもち、互いを認め合う児童の育成を目指した人権教育の推進～ふれ合いを大切にした教育活動を通して～
笠・笠間小　教諭　久地岡　直美　外　全職員

19　校内研修
基礎・基本の定着と考えを伝え合う力の育成を目指して
～「茨城県学校改善支援プラン」を活用し、授業改善を中心とした校内研修の充実～
古・古河二小　教諭　松田　薫　外　全職員

20　特別支援
自己肯定感を高める合同学習の支援の在り方
～エコキャップによる社会貢献活動を通して～
神・太田小　教諭　糸川　由美子・関田　洋美

21　学校健康
健康に関心をもち、生き生きと活動できる子どもの育成
～学び合い、高め合う健康教育の実践～
北茨・関本一小　養護教諭　沼田　みどり

22　学校健康
心身共に健康で安全な生活づくりをめざす児童の育成
筑・下館小　教諭　熊倉　貴子　外　全職員

23　学校健康
食の自立と豊かな心をはぐくむ食育教育の在り方
牛・牛久南中　栄養教諭　潮崎　純子

【佳作】

1　教育課程　つ・吾妻中　教諭　綿引　良文
2　国語　古・古河七小　教諭　柿沼　君枝
3　国語　筑・関城中　教諭　田部井悦子
4　国語　筑・協和中　教諭　宮崎　公文
5　算数・数学　筑・養蚕小　教諭　鈴木　照美
6　算数・数学　水・妻里小　教諭　深谷　弘美
7　算数・数学　ひ・中根小　教諭　戸板　恵子　外　全職員
8　算数・数学　猿・静小　教諭　増田　靖
9　算数・数学　潮・大生原小　校長　青木　利宏　外　全職員
10　理科　鉾・旭北小　教諭　錦織　一宏
11　音楽　常太・太田小　教諭　谷口美穂子
12　音楽　結郡・安静小　教諭　宮城真恵美
13　図画工作・美術　取・取手小　教諭　中河あや子
14　図画工作・美術　常総・石下西中　教諭　石原亜矢子
15　体育・保健体育　か・宍倉小　教諭　奥山　圭子
16　家庭・技術家庭　牛・牛久南中　校長　永井　行男　外　全職員
17　学校経営　古・八俣小　教諭　奥沢　忍
18　学級経営　つ・谷田部南小　教諭　會澤　伯民
19　生徒指導　常太・太田小　教諭　大内　直樹　外　全職員・PTA
20　情報教育　日・駒王中　教諭　木口裕美子
21　特別支援　桜・真壁小　教諭　飯田　京子
22　特別支援　坂・岩井一小　教諭　日向　里子
23　特別支援　結市・城南小　校長　大貫みさ子　外　全職員
24　その他　日・諏訪小

優秀賞受賞のよろこび

常総市立水海道中学校
教諭　堀邉　英明

この度は、身に余る賞をいただき恐縮しております。また、振興大会において、受賞者を代表して発表の機会を与えていただきありがとうございました。

今回の論文は、教材づくりの基本に着目し、学習意欲の向上と確かな学習の成果を実感できるような授業を展開していきたいと考え実践してきたものをまとめたものです。

研究を進める中で、これまでの実践を振り返りながら、教員としての出発点に立ち返ることができたように思います。また、多くの方々のご支援があってはじめて今回の研究論文という形でまとめることができたと思います。

このような研修・実践を行う機会を与えてくださった先生方やご指導・ご支援をいただいた先生方に深く感謝しております。

今回の受賞を励みに、更に研究と修養に努め、生徒たちが自らの成長を実感できるような実践をこれからも続けていきたいと考えております。

ありがとうございました。

八千代町立下結城小学校
教諭　横瀬　郁子

この度は、県議会議長賞という大きな賞をいただくこととなり、誰よりも驚いています。同時にその重さに身が引き締まる思いがしています。

本研究は、算数科で身に付ける数量関係に関する読解力と、その活用力の育成を目指した実践をまとめたものです。中学校で理科を教えていた際に感じた、実験結果の考察を深める活動の難しさが出発点となったことで、各教科間のつながりを意識した実践となりました。研究を進めるにあたっては、校長先生をはじめ、同僚の先生方やたくさんの方々の協力や助言をいただきました。試行錯誤の連続だった本研究を論文にまとめることが出来ましたのも、支えてくださった方々のお陰だと心から感謝しています。

今回の受賞により、本研究の方向性を評価していただいたことを励みとして、より一層研究を深め、児童に還元したいと思います。本当にありがとうございました。

美浦村立木原小学校
教諭　森　浩美

優秀賞を受賞し、まず思い浮かべたのは、現勤務校の校長先生、教頭先生はじめ、これまでお世話になった先生方の笑顔でした。きっと、自分のことのように喜んでくださると思えたからです。

今回の受賞は、今まで私に関わってくださった多くの先生方のお陰です。心より感謝申し上げます。どの先生からも、教育に対する理念・生き方を感じ、影響を受けてきました。憧れをもち、吸収したい、追いつきたいと努力することを楽しむ自分がいました。

大好きな社会科で論文をまとめることができたのは、大きな喜びです。しかし、日々ほんの僅かですが、私自身も変容し進んでいます。十一月に論文を応募したその日から、この論文は私にとって、過去のものとなりました。今、研究論文を書くならば、同じテーマであっても、全く違った実践を取り入れて書くことでしょう。

今後も謙虚に学び続け、変革を恐れずに精進していきます。

日立市立多賀中学校
教諭　正木　啓道

この度はこのような賞をいただき感謝申し上げるとともに、喜びや驚きの気持ちでいっぱいです。

本研究は、わかる・できる・楽しい授業づくりの視点で、協働的な学習の場を柱として、学ぶ意欲の向上を目に見える形で具現化することに焦点を当てて、地道に実践を積み重ねました。身近な材料を用いての実験を出発点とし、理科授業を日常生活とどう結びつけるか試行錯誤しました。理科学習への意欲や科学への関心を高めたいという思いから、教材や教具の開発に励み、学習形態や表現方法の工夫改善を図りました。その結果、事物・現象のイメージ化、達成感や成就感の伸長、個を生かし伸ばす学びの共有化、学び合う場の構築などについて、いくつかの成果を示すことができました。

これまでの実践を温かく見守ってくださった校長先生をはじめ、ご指導、ご助言をくださった多くの先生方に感謝し、今後も日々研鑽に努めて参りたいと思います。

河内町立生板小学校
教諭　栗山　美智子

この度は、このような賞をいただき、喜びと同時に驚きと感謝の気持ちでいっぱいです。

本研究は、児童が互いに、協力し合い、認め合い、励まし合うような学び合う学級集団を目指しながら、一人一人の児童に、自分を律する力や、自己のよさや可能性に気付き、自信をもって、よりよく生きようとする自主的・実践的態度を育てたいという教師の思い（指導する必要性と責任感）からスタートしました。

係活動から始まり、保護者との連携を図った「1／2成人式」や「自己向上プロジェクト」では、保護者からの応援メッセージや友達からの励ましカードに、笑みをこぼしながらも瞳を輝かせていた児童の姿が印象的でした。

活動を積む毎に、児童の成長と学級としての質の向上を実感することができたのも、本校職員の協力体制と保護者の協力があったからと、深く感謝申し上げ、今後も日々研鑽に努めたいと思います。

平成二十二年度 県外派遣研修報告

静岡方面

県外教育事情調査派遣団

【団　長】
常陸・北中学校　鴨志田　悟

【副団長】
常・菅生小学校　島田　文江

【団　員】
土・土浦第一中学校　久松　明
桜・岩瀬東中学校　本宮　玲子
古・水海小学校　大賀　均
城・桂中学校　小林　文恵
大・だいご小学校　髙橋　織江
水・石川中学校　志田由美子
神・波崎第四中学校　石津　京子
取・桜が丘小学校　佐藤　信之
牛・牛久南中学校　井上　恵子

富士市の教育に学ぶ

常陸太田市立北中学校
団長　鴨志田　悟

平成二十二年度の県外教育事情調査派遣研修では、静岡県富士市立丘小学校と同市立元吉原中学校を視察しました。

富士市は静岡県第三位の人口をもつ二十六万人の工業を中心とした都市です。市内には公立小学校二十七校、中学校十六校あり、「富士山のように、広く思いやりの心をもち、積極的に教養を深める大人とかかわり合いながら、子どもが学校、家庭、地域で輝く存在」になるように『ふじの教育』を推進しているところに特色があります。特に今年度は「子どもの未来をひらく、魅力ある教育の推進―確かな学力と豊かな人間性をはぐくむ―」ことを重点目標と定めていました。

具体的には、「確かな学力」を身に付けるために、かかわり合いを大切に「聴き合い、伝え合う」ことから「深め合い、高め合う」ことに重点を置いた授業づくりを進め、「豊かな人間性」の育成と一体となって、生きる力をはぐくむことにつなげようとしていました。視察した二校の授業や協議の中からも、このような授業づくり、学校づくりの取組がうかがえました。たとえば、授業の中に意図的に単元や単位時間における「付けたい力」を明確にしたり、学びがいのある学習課題を設定したりしているところです。

また、子どもが自分自身の学びを見つけ直すために学習の振り返りの工夫と活用も図っていました。やはり子どもの疑問や思いを生かした授業づくりは、子どもの学びの実感とつながっているようでした。その上、共感的に子どもの話を聴き、温かい言葉かけを意識して授業の中に取り入れ、どの子どもも自分の価値に気付き、教室に安心感と温かい信頼関係を生むように、学校全体でその方針を共有し推進していることが大変参考になりました。

一方、二校の職員研修の説明等から、子どもの学びを成立させるためには教師自らが常に学び続ける姿勢が重要であり、深い同僚性をもつ教師集団の構築を一つの目途とする研修が一人一人の教師力の向上につながるとの内容が印象に残りました。授業を子どもの学びを中心に振り返る研修に、その真髄を実感することもできました。

最後になりましたが、有意義な調査派遣研修を実施するに当たり、県教育研究会役員並びに事務局の先生方、団員所属の各校長先生方等にお世話になったことに深く感謝し、報告とさせていただきます。

富士市の教育に触れて

常総市立菅生小学校
副団長　島田　文江

平成二十二年度の県外教育事情調査の研修先は、鴨志田団長の強いリーダーシップと教育に対する熱い思いから、富士市立丘小学校と元吉原中学校に決定しました。

両校共に、学力向上実践研究推進校として、授業研究に熱心に取り組んでいます。

元吉原中学校の公開授業は一時間目から全クラス自由に参観でき、時間的にハードであった私たちにとっては大変助かりました。

四時間目の公開授業では、一年生の国語を中心に参観しました。登場人物の行動や会話からその心情を推察し、話し合いを深めていく授業は、柔らかくしっとりとした雰囲気で行われていました。

五時間目の研究授業は、三年生で行われましたが、研究の成果が全面に現れ、すばらしい授業でした。教師の考え抜かれた発問や資料、生徒の豊かな表現力。まさに「生徒一人一人の学びが保証」された授業でした。

さらに研修になったのは、授業後の「授業反省会（研究協議）」です。佐藤学先生を講師として年に三回行われているとのことでしたが、協議の中からも、職員一人一人の教育に対する思いが伝わり、「質の高い学びづくり」の現場をほんの少しですがのぞかせていただいた思いがしました。この「授業反省会」に参加できたことが、今回の県外研修の一番の収穫であったことは、私だけでなく団員一同皆同じだったと確信します。体育館で公開された研究協議は、午後三時から六時過ぎまで行われましたが、それでもまだ協議したい、佐藤先生のご指導を受けたいという雰囲気を残して閉じられました。

二日目に訪問した丘小学校は、「聴き合い　かかわり合い　自分を高めていける子―言葉の力をはぐくみながら―」を研究テーマにあげ、授業研究に取り組んでいました。そして、研究テーマのとおりの「聴き合う」授業を参観させていただきました。四年生の児童が自分の考えをしっかりともった上で友達と意見交換をし、考えを深めていく姿に三年間の研究の成果が現れていました。また、丘小学校からは、富士山が一望でき、校訓の「健康―清らかで気品がありどっしりとした富士山のように―」を実感することができました。

最後に、今回研修の機会を与えてくださった県教育研究会関係の諸先生方、そして共に研修視察を行った県内各地の先生方に感謝し、報告とさせていただきます。

富士市立丘小学校

一　はじめに

丘小学校は、富士市の北西に位置し、教室の窓からは富士山を望むことができるなど自然環境にも恵まれている。昭和四十八年開校で、現在は学級数二五、児童数八五四名という大規模校である。平成二十年度から三年間、文部科学省指定学力向上実践研究推進校として研究に取り組んでいる。その実践研究の概要を紹介する。

二　研究主題

聴き合い　かかわり合い　自分を高めていける子

―言葉の力をはぐくみながら―

三　研究のねらい

以下の四点についての研究を通して、児童の学力の向上を図る。

① 聴き合い、かかわり合う授業（学び合う授業）の研究

② 言葉の力をはぐくむ教材・手立て・単元（教材）構想の研究

③ 家庭との連携による学習環境・言語環境の向上を図る手立ての研究

④ 本当に学力がつき、自分を高めていけたか検討する評価の研究

四　研究の実際

㈠授業研究に関して

児童一人一人が、聴き合い、考え合い、それぞれの思いや考えを響かせながら学びの質を高めていくことをねらいとして研究を進めてきた。

「聴きながら考える」「友達の意見につなげて話す」など、学び合いの基礎となる聴き方やかかわり方を児童に定着させるため、掲示物等の資料を充実させ積極的に活用を図った。

また、すべての児童が学習に参加し、考えを深める手立てとして、様々なグループ活動を取り入れた。ペアや小集団のほかに、「渡り鳥学習」と称した自由交流の学習スタイルを取り入れ、学び合いの活性化を図った。これは、教室の中を自由に渡り歩きながら、多くの友達と意見を交流し合うもので、互いに聴き合うことが刺激となって、自分の考えがさらに深まるなど、学びの質を高めるのに効果的である。

さらに、かかわり合うためには、互いをつなぐ豊かな言葉が必要と考え、言葉の力をはぐくむ活動の充実も図った。

読書活動の推進や国語辞典の活用、書くことを授業の中に意識的に取り入れるなど、語彙を増やす活動の充実に努めた。

㈡家庭との連携に関して

学校の児童に対する切なる思いや願いを様々な形で発信することで、学習習慣や言語環境の向上を図った。

具体的には、各学年の実態に応じて①学習の準備②授業中のめあて③家庭学習の約束などをまとめた「学びの達人」の配布や、「かてれんだより」の発行などを行っている。

かてれんファイルは成績表とセットで配布するようにし、なかなか思いが届かない家庭とも連携が図れるような対策をとっている。

㈢評価に関して

児童の言動、書いたこと、作品などから、様々な変容を分析し価値付けて、児童に返していくことで、指導と評価の一体化を図った。

また、本当に学力がつき、自分を高めていけたか検討するため、逐語記録やＶＴＲなどの活動記録によって児童を意識して見取ったり、学力調査等の客観的なデータを活用した分析を行った。

五　おわりに

丘小学校では、一人年間二回の公開授業を行い、目指す児童像の実現に向け、研修を重ねているそうである。授業を参観させていただいた四年生の教室では、児童が互いの言葉に真摯に耳を傾ける温かいかかわり合いの場面を随所に見ることができ、職員が一丸となって取り組んできた三年間の研究が、確実に成果として表れていることを感じることができた。

丘小学校授業風景

富士市立元吉原中学校

一　はじめに

富士市立元吉原中学校は、富士市の東南に位置し、学区の西端には国内外の多くの船舶が出入りする田子の浦港がある。学校が設立されたのは、昭和二十二年である。

「学び合い　創り合う」という学校教育目標のもと、自ら進んで意欲的に学び、他者と関わり、互いのよさを認め合っていく生徒の育成を図っている。

二　研究主題

「生徒一人一人の学びを保証するための『活動的で表現的な学び』を目指した授業改善―背伸びとジャンプのある質の高い『学び』を目指して―」

三　研究のねらい

「教師が一方的に効率よく知識を伝達し、暗記させる教え込む授業から、他者とのコミュニケーションがある『学び』へ、授業の質を変える」ことにより、生徒一人一人の学びを保証する。

四　研究の実際

㈠授業の質を変えるための取組

一時間の授業の中に、次の三つの要素を各教科で共通要素として取り入れ、学びの保証の手段とする。

①活動・作業（個人作業）

②共同（小グループ活動）

③表現と共有

具体的に、①は、観察する、読み返す、考えをまとめる、操作的な活動をするなどの知的な作業活動。②は、小グループ活動の中で多様な考えをすり合わせることにより、互いの差異を認め合う。また、子ども同士の関わりで、分かった子どもが分からない子どもをケアし、集団のレベルアップにつなげる活動。③は、他者の話を聴き、自分なりに考えを創る。また、他者と係わる中で、自分の考えを吟味し、反省したり考えを補強したり、広げたりすることである。

この取組の手段として、教室での机の配置は「コの字型」、座席は男女が市松模様、グループは男女混合の四人とする。

(二)教師の役割

第一に、学びのデザインを考案、作成する。子どもの学びの事実に寄り添い授業を組み立て、展開するためのシートである。単元名や目標、授業の流れなどをA4一枚に簡単にまとめ、参観者用に教室前に置いておく。

第二に、子どもの発言を「聴く」「つなぐ」「もどす」の実践をする。

第三に、子どもへのケアリングを行う。元吉原中学校では自分ブランドの創造のために「安心」と「平等」を基盤とし、今の自分を見つめ直し、自分に近づくために、生徒一人一人が質の高い学び創りを行うことを目指している。

(三)校内研修の充実と研究協議

全教師による公開授業の実施、また中心授業を全職員で参観後、スーパーバイザーを招いての研究協議を行うことで、職員の専門性を高める機会としている。研究協議会の視点は、「どう教えるべきだったか」ではなく、「子ども一人一人の学びが保証されていたか」「背伸びとジャンプのある学びを保証できたか」を中心に据え、その上で、授業の中で現れた子どもの事実を元に活発に意見交換を行い、全員で共有し合うスタイルである。

五　研究の成果と課題

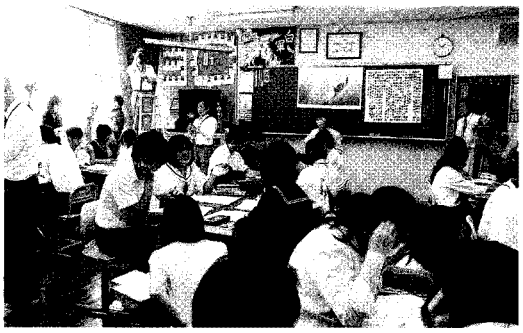
・一人一人の子どもをよく見るようになり、職員みんなで関わるという意識に変わりつつある。

・教科の特性を生かした課題設定の工夫―生徒と息づかいを一体にし、夢中になって課題を追求する。

・共有レベルでは、ペア学習などで作業量を上げ、ジャンプで応用に取り組む。

六　おわりに

生徒たちの授業の取組の様子からも、日ごろの研究実践が行き届いていることがうかがえた。教職員の専門性を高めるために、公開授業と校内研修を充実させ、「学ぶ楽しさ」に導く授業を創造していることに感銘を受けた。



元吉原中学校授業風景

県外視察に参加して

土浦市立土浦第一中学校
久松　明

本校でも佐藤学先生の著書等に学び、授業改善に取り組んできましたが、元吉原中の先生方と生徒の姿には衝撃を受けました。背伸びとジャンプのある質の高い授業や授業反省会での熱心な協議。何より佐藤先生のお話を直接うかがえたことはとても勉強になりました。

桜川市立岩瀬東中学校
本宮　玲子

元吉原中では、国語の授業をするために現地（沖縄）まで行くという情熱的な授業を、丘小では、自分の考えを発表し合い、児童同士で考えを深めていくという授業を見ることができました。教師が自分の技術を高めなければならないことを実感した研修になりました。

古河市立水海小学校
大賀　均

今回の県外視察では、元吉原中学校、丘小学校とも児童、生徒の「学び合い」について研究実践を見せていただきました。授業参観では、児童・生徒が自分の考えを明確にして発表や意見交換をし主体的に活動する姿を見ることができ、とても印象に残りました。

城里町立桂中学校
小林　文恵

元吉原中学校では、校内研修の在り方と研究協議の進め方において、全職員が子どもの実態を共有し合い、温かい雰囲気の中で活発に意見交換を行っている姿が、とても印象に残りました。講師の佐藤学先生のお話からは、課題設定の大切さを改めて考え直す機会をいただきました。

大子町立だいご小学校
髙橋　織江

どの教室でも、一人一人の意見が大切にされ、それをつないでいくことで、全体の学びが深まっていました。児童生徒が、主体的に、活動的に授業を創りあげていく姿に、両校の目指す児童像が重なり、研究実践が確実に実を結んでいることを、強く感じることができました。

水戸市立石川中学校
志田　由美子

視察校の二校とも、言語活動を重視した授業が展開され、体験や学び合いを通じて、児童・生徒の言葉の力が育っていました。生徒の思考力と言語力向上のために、話を心で聴き、自分の思いや考えを人に伝えられる生徒の育成に努めていきたいと思いました。

神栖市立波崎第四中学校
石津　京子

元吉原中学校では、いかに子どもの様子をとらえるか、質の高い学びへともっていけるかに重点が置かれた授業展開でした。また、丘小学校でも、教材研究のあとがうかがえる素晴らしい授業を参観させていただき、今後の教育活動の参考になりました。ありがとうございました。

取手市立桜が丘小学校
佐藤　信之

丘小学校では、「聴き合い　かかわり合い　自分を高めていける子」をテーマに、研修に取り組んでいました。授業では「攻めながら聴く、温かく待つ」という展開がしっかりと確立されていました。子どもたち一人一人が、生き生きと話し合う姿がとても印象的でした。

牛久市立牛久南中学校
井上　恵子

元吉原中では、生徒一人一人の学びを保証する授業が行われていました。探究的で協同的な学びを生徒自らが追求していました。

丘小では、子どもを中心とした学校縁を大切にしていました。

この貴重な研修を今後の教育活動に生かしたいと思います。

三中祭（全学級による器楽合奏の発表）土浦市立土浦第三中学校

視点

― 学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた特色ある教育課程の評価及び改善 ―

論理的思考力・表現力を小論文指導で育成する

那珂市立菅谷小学校
教諭　篠原　京子

一　新しい評価の観点

平成20年版学習指導要領では、「学校教育法」第30条第2項「学力の三要素」を踏まえた次の評価の観点を提示し、「言語活動の充実」を求めている。

(一)基礎的・基本的な知識・技能
【知識・理解・技能】
(二)知識・技能を活用しての思考力・判断力・表現力
【思考・判断・表現】
(三)主体的に学習に取り組む態度
【関心・意欲・態度】

二　本校の研究主題

「論理的思考力・表現力を育成する学習指導法の研究―各教科における小論文指導を通して―」を校内研究の主題とした。

三　国語科における小論文指導

国語科で、年間五回、全学年同じテーマ（①遠足②当番活動③運動会④お手伝い⑤一年間をふりかえって）で小論文の書き方を具体的に指導した。その結果「上手な書き方が分かった」「書くのが楽しみ」という児童が増えた。

四　各教科における小論文指導

国語科で習得した技術を活用し、各教科でも小論文を書かせた。各教科のテーマ例を示す。

(一)単元の学習のまとめ
(二)見学や実習の報告
(三)実験や観察の記録
(四)算数の問題の解き方の説明
(五)作品の作り方の説明、等

五　まとめ

構成の整った小論文を書かせることで、論理的思考力・表現力が高まった。また、具体的事実を詳しく観察するようになった。一方、単元のまとめを書かせたことで、児童の理解の実態を知り、教師の指導改善へ意識も高まった。

伝え合う力を高める教育活動

常陸太田市立水府小学校
校長　佐川　憲一郎

百十三名の児童が学ぶ本校は、近くに竜神大吊橋があり、豊かな自然に恵まれた環境にある。平成二十年度に染和田小と北小が統合して現在に至っている。

児童の多くは、意見や考えを主体的に発表することが苦手であり、また、統合のため、よりよい人間関係を築くためのコミュニケーション能力を育成する必要があった。そこで、伝え合う力を高め、豊かな心をはぐくむ指導の工夫をテーマに掲げ教育活動を実践している。

一　主な実践

(一)国語科を中心にした学習指導の工夫

○学習の過程を「考えをもつ」「表現する」「較べる」「高める」と捉え、自己の考えを表現する力及び他者の考えをもとに自分の考えをまとめる力を高めるための指導法を工夫している。

○指導方法を改善するための授業研究（指導案共同立案→相互参観→研究協議）を継続的に実施している。

(二)書く力や表現力を高めるための実践

○日記・作文では、低学年は5W1Hを意識して書く、高学年は新聞記事について自分の考えを書く等、発達段階に応じ、継続して取り組んでいる。

○その他、朝の会のスピーチ活動、群読発表会、ことばあそび等を日常的に実施している。

二　主な成果

○アンケートで、「授業が分かる」と回答した児童が増えた。

○作文等の各種事業に自主的に応募する児童やその中で優秀な成績を収める児童が増えた。

○互いを認めようとする態度・友だちや教師の話を聞く態度が身に付いてきた。

今日が楽しく、明日が待たれる学校づくり

土浦市立土浦第二小学校
校長　齋藤　優子

児童にとって、学校生活の授業が占める割合は大きく、「学ぶ楽しさ」「学ぶ喜び」を実感することが、児童の学校生活を豊かにしていくものと考えている。本校では、豊かな学校生活を支える基本として、学習意欲を高め学力を向上させていくことを重視しており、次の四点を指導の柱とし、全職員が共通理解の基、取り組んできた。

一　指導と評価の一体的指導を基にした、授業改善の工夫

(一)学力向上を目指した校内研修の充実

○研修テーマ「学んで考え表現できる子どもの育成」

(二)「学び方」を生かす授業改善

○学習意欲が学びを支え、その学びがさらに学習意欲を高めていくような授業展開

二　意図的・計画的な少人数指導

(一)「まなび」の時間の活用

○基礎的内容の確実な定着とフォローアップ

(二)中学年での少人数指導の工夫

○中学年における学力の定着と二極化の防止

三　児童の主体的な学習を支える「手引き」の作成と活用

(一)「学び方ガイド」の活用
○各学年における学習の進め方
(二)「ノートの使い方」の作成と活用
○言語能力を高めるためのノート指導

四　言語環境の整備

以上のような取組を進めてきた結果、教師の指導力、児童の学習への取り組み方、ノート内容、学力等に変容が見られた。

今後も、教師自身が「豊かな発想」をもち、個人の力量、組織としての力を高めていくことを心がけ、「今日が楽しく、明日が待たれる学校づくり」を目指していきたい。

言語活動を取り入れた算数科の授業改善

守谷市立松前台小学校
校長　倉持　みち代

今年度、本校では「子どもが生き生きと活動し楽しく学び合う学校」、「生涯学ぶことのできる基礎・基本や思考力・判断力・表現力をしっかり身に付けさせる学校」を経営方針に掲げている。そして、児童に育てたい学力を「学ぶ目的をもち、進んで考え表現する力」として、言語活動を取り入れた学習指導法の改善を以下のように推進してきた。

一　全職員による学校改善プランの作成

新しい学力観に基づいた本校の課題を共有し、改善策を立てるために、ワークショップ方式を取り入れ、全職員で改善プランを作成した。この研修により、算数科における知識・技能の活用能力を高める指導を重視していくことと授業改善の視点を全職員で共通理解することができた。そして、従来実施してきた習熟度別学習に次のような視点を加え、授業改善を図った。

①児童の生活に結びついた課題の設定
②自分の考えを図や言葉を使って表す活動の設定とその支援

二　縦断的な学習計画に基づいた指導の重点化

学力診断テスト・児童アンケートにおいて課題が残った単元について、全学年を通した縦断的な学習を設定した。算数部会を中心に、児童のつまづきや指導法について学年間の情報交換を行いながら、六月は「図形」、十一月は「数と計算」の重点化を図った。

学習後の児童アンケートでは学習の目的を明確にできた児童の割合が高くなり、学校改善支援プランの評価問題でも成果を確認することができた。来年度は横断的な学習を取り入れながら、さらに言語活動の充実を図っていきたい。

確かな学力を育成するための工夫・改善

古河市立古河第四小学校
校長　池ノ谷　秀夫

「生きる力」をはぐくむという理念を継承しながら学習指導要領が改善され、より学力の向上が強調されてきている。本校では、学校教育目標である「自ら学び、健康で心豊かな子の育成」の中の確かな学力の育成を目指した学校づくりをテーマに研究を進めている。

一　授業力の向上を推進

(一)校内研修の充実
○ＰＤＣＡサイクルに基づき研究の見直し改善を図ること
○文科省や県の学習指導の助けになる資料を積極的に活用
(二)授業研究の実施
今年度、以下のことを踏まえ要請訪問を市に年三回、教育研修センターに一回実施
○指導主事を招いて指導案検討
○授業前に学年で模擬授業
○ＫＪ法を用いての授業後評価
(三)本校独自の「わたしの算数学習計画」の作成・活用
○毎時間の学習のねらいを明確にし、問題を解くための見通しと家庭学習の習慣化
(四)ＴＴ・少人数指導の推進

二　基礎的・基本的な知識・技能の習得への取組

(一)「学びの広場サポートプラン」
○四・五・六年生で実施
○全職員が指導者
○大学生サポーターを延べ三十六人と中学生サポーター二十六人動員
(二)朝ドリルの活用

三　学習習慣の確立

(一)家庭学習強化月間の実施
○年三回（六・十一・二月）実施（家庭学習の手引き・記録表の配布とがんばり賞の授与）

四　今後の課題

学校評価により、成果も上がっているが、改善の余地もかなりある。今後もＰＤＣＡサイクルに基づき、取組を改善しながら、「生きる力」をはぐくむため、新教育課程を推進したい。

ミッション22「確かな学力の向上を目指して」

桜川市立南飯田小学校
校長　榎戸　元

本校は、創立百三十七年の歴史と伝統のある自然豊かな学校である。「自ら進んで学び、豊かな心で、たくましく成長する児童の育成」を教育目標とし、全職員一丸となって、その実現に向けた取組をしている。

本年度は、学力にやや課題が見られたこと、「学力向上実践協力校」の県指定を受けたことから、ミッション22と称して、学力向上を最重要課題ととらえ、算数科校内研修をはじめとした様々な取組を実践している。

一　授業カイゼン

○児童の実態に即したＴＴや習熟度別指導の工夫
○算数的活動の積極的導入
○学習の約束・ノート指導・学習の進め方の統一と共通理解
○県学校改善支援プランの活用

二　基礎的な知識・技能の習得

○朝のドリル時間や授業中の練習時間の確保
○月例テストによる定着度の確認と反復練習の充実
○県事業「算数・数学博士チャレンジ道場」の問題を使った「チャレンジタイム」の実施
○県事業「学びの広場」と高学年「学習相談」の併行実施

三　学習環境の整備

○少人数教室の整備と有効活用
○各教室算数コーナーの充実
○算数アンケートの実施

四　家庭との連携

○家庭学習の手引きの配付
○家庭学習に関する学級活動の保護者一斉公開
○児童・保護者アンケート実施
取組の成果として、児童の学習に対する意欲や保護者の関心が高まり、基礎的・基本的な知識・技能の向上が見られた。今後は、言語活動の充実にスポットを当てた研修を推進したい。詳細は、本校ＨＰをご覧ください。

「ハッピータウンとようらプロジェクト」日立市立豊浦小学校

研究部 本年度のあゆみ

平成22年度・研究目標・活動と反省

重点研究部

教育課程

創意ある教育課程の編成・実施と評価・改善

部長　大嶺　和彦

本年度は、研究主題に基づき、新学習指導要領の全面実施に向け、以下の取組を実施した。

五月二十日（木）
○郡市部長研究協議会
・組織づくり、研究主題の策定、事業計画・予算案の審議など

七月七日（水）
○研究推進委員協議会
・研究協議会・講演会実施計画作成、発表者の選出など

○研究推進小委員協議会
・小委員会の編成、係分担など

十月二十七日（水）
○研究推進小委員協議会
・発表内容、係分担など確認

十一月二十九日（月）
○研究協議会・講演会
・小中学校部会発表と協議
・教育庁義務教育課長本多清峰先生の講演

二月八日（火）
○郡市部長研究協議会
・事業・決算報告、次年度事業計画・予算案作成など

なお、業務の軽量化の一環として、協議の効率化を図り、会議時間の短縮を試みた。

生活科

「わくわく、どきどきが伝わる生活科の創造」
～豊かな体験と探究活動を通して～

部長　後藤　裕美恵

本年度は、研究主題に基づき次の事業を実施した。

一　郡市部長・推進委員合同研究協議会（六月）

組織づくり、研究主題、事業計画、今後の研究推進について

二　夏季研修会（八月）

講師　茨城大学教育学部附属教育実践センター
　　客員教授　岡部　千草先生
演題　「子どもが学ぶ　子どもに学ぶ　生活科」

県内より一六九名の先生方が参加し、新学習指導要領の実施と授業力の向上にむけて、生活科の特質や子どもの知的な気付きを質的に高める教師のかかわりについて研修ができた。

三　関ブロ小生活・総合茨城大会にむけての実行委員会及び研修会

(一)実行委員会（六～二月に四回）
(二)研修会（八月）
講師　筑西市教育委員会
　　指導主事　氏家　真理子先生
内容　学習指導要領の全面実施に向けて

四　関ブロ小生活・総合東京大会参加

太田区立赤松小学校（十月）

音楽

共に親しみ共に楽しみながら心をつなぐ音楽を求めて

部長　岩田　伸子

本年度は、新研究主題のもと、次の事業を実施しながら研究・研修を推進した。

本年度の主な事業

一　郡市部長研修会　6/9　5/27

二　研究推進委員会　2/23　10/28

三　ブロック別研究協議会
・県北ブロック（重点地区）
【期日】十一月十八日（木）
【会場】高萩市立秋山中学校
　　高萩市立秋山小学校
・中央ブロック　笠間市　11/26
・県東ブロック　鉾田市　10/22
・県南ブロック　稲敷市　11/9
・県西ブロック　猿島郡・坂東市　11/19

四　実技研修会
・歌唱実技研修会
　中学校　6/25　・小学校　6/16
　モデル校（竹園東中・玉里小）　8/17
・器楽実技研修会
　コース別研修
　会場　茨城大学教育学部棟

五　県文化課主幹事業
県芸術際小中学校合唱合奏大会
　中学校の部　11/24
　小学校の部　11/25

六　茨城県リコーダーコンテストフェスティバル　2/10
　会場　ひたちなか文化会館

七　研究紀要の発刊　2/23

家庭　家庭技術・家

よりよい生活者をはぐくむ学習指導の在り方（中学校）
未来を創り出す豊かな心と確かな実践力をはぐくむ家庭科教育（小学校）

部長　木村　敬

一　授業研究会　松代小　7/13
・関ブロプレ授業　松代小　柳橋小　11/9　12/8
　講師　筒井調査官

二　夏季研修会　8/10
・小　つくば　講師　筒井調査官
・中　教育プラザ　講師　上野調査官

三　研究推進委員会　6/9　2/15
・小　教育プラザ　講師猪野指導主事
・中　教育プラザ　講師小林指導主事

四　いばらきものづくり教育フェア
（全国産業教育フェア共催・つくば）　10/16　10/17
○各部門競技会
・アイデアバッグ　千波中　8/20
・木工の技　滑川中　8/23
・作品展・パソコン入力
　つくば国際会議場　10/16
・お弁当コンクール　北浦中　10/17　11/13
・アイデアロボコン
　茨城県武道館　12/4

五　中学生創造ものづくり教育フェア関東大会茨城大会
　茨城県武道館　12/5

六　関ブロ大会参加
・小　第二十七回横浜大会　10/15
・中　第四十九回神奈川大会　11/26
提案「エネルギー変換」
「教育課程」

七　第十一回全国中学生創造ものづくり教育フェア東京大会　1/21　1/22

英語

総合的コミュニケーション能力の向上をめざした指導の工夫・改善

部長　木村　友明

平成二十二年六月の第一回郡市部長会において、第二十代部長に木村友明（笠間市立友部第二中学校長）が就任。

本研究部の事業の一つである英語インタラクティブフォーラムも十二年目を迎えた。国際化の影響から、県内にも多くの外国人の方々が居住し、出場する生徒には、家庭において英語で会話をする生徒や帰国子女の生徒など様々な様相が伺える。そこで、今年度は教員向けの調査を実施し、参加資格や運営方法などの課題を改善していく協議を行った。

本年度の研究テーマである「総合的コミュニケーション能力の向上をめざした指導の工夫・改善」について、各ブロックに推進委員会を組織した。授業公開や研究協議を通して指導力の向上に努めている。また、本年度末には、研究紀要第十五集を発刊した。

来年度から全面実施される小学校外国語活動において、円滑な接続・連携をより緊密に図りたい。

平成二十四年度には、五巡目となる関ブロ茨城大会に向けて、研究テーマなど具体的な方向性を協議する研修を重ねていきたい。

道徳

未来を拓く　心豊かでたくましい子どもを育てる道徳教育

部長　渡辺　準一

一　本年度の取組

(一)郡市部長研究協議会　5/26

(二)郡市部長並びに研究推進委員合同研修会　7/23

○講話　これからの道徳教育
・道徳教育に係る本県の現状
・新学習指導要領の先行実施に係る課題と改訂のポイント
茨城県教育庁義務教育課
指導主事　平子　剛之　先生

○五ブロックごとの研究協議

(三)各ブロックごとの研究推進

(四)授業研究会の開催

○水戸市立千波小学校　1/27
低中高別三学級公開と分科会の実施

○水戸市立千波中学校　2/4
一、二学年四学級公開と分科会の実施

(五)郡市部長研究協議会と研究推進委員研修会　2/9

○関ブロ茨城大会進捗状況の報告と今後の取組及び研究計画

○各ブロックの研修報告

○講話　これからの道徳教育
水戸市総合教育研究所
指導主事　木村　真理　先生

二　次年度の構想

関ブロ茨城大会に向けての研究推進と運営の充実

特別活動

望ましい人間関係を築き、自主的・実践的な態度を育てる特別活動の展開

部長　黒澤　祐一

一　郡市部長研究協議会（二回）

二　研究協議会（県南ブロック）

(一)期日　十月二十八日（木）

(二)会場　龍ケ崎市立城ノ内小

(三)内容

○授業公開（各学年一学級）

○分科会（講師）
県南教育事務所学校教育課
指導主事　栗原　純一　先生
他二名
・分科会発表（研究テーマ）
「異年齢集団を活用した自主的・実践的な態度を育てる支援の在り方」
「よりよい学級生活をめざし、児童一人一人が意欲的に取り組む学級活動の在り方」
「児童一人一人が協力しながら、自主的に児童会活動に取り組む支援の在り方」
「生徒が自主的に判断し、積極的に自己を生かす特別活動の在り方」

○全体会（講話）
茨城県教育研修センター
教職教育課指導主事
谷田部　由実子　先生

授業公開・分科会・講演会を通して、共通する課題に対し、研修を深めることができた。

総合的な学習の時間

わくわく・どきどきが伝わる総合的な学習の創造
―豊かな体験活動や探究活動を通して―

部長　坂場　安男

【事業報告】

一　郡市部長研究協議会

○六月四日　教育プラザ

○二月　（文書報告）

二　ブロック別研修会の開催

○七月～八月　各ブロック会場

三　関ブロ東京大会参加

○十月二十二日（金）

○大田区立赤松小学校
・茨城大会役員等参加

四　全国大会秋田大会参加

○十一月四・五日（木・金）

○秋田ビューホテル・市内小学校
・部長参加

五　関ブロ茨城大会準備

○実行委員会・役員会の開催
・役員会・部毎の実行委員会

来年度、十一月十一日に関東地区小学校生活科・総合的な学習の時間教育研究協議会の茨城大会が、牛久市立神谷小学校と牛久市中央生涯学習センターで開催される。

それを受けて今年度は、実行委員会を立ち上げ、茨城大会の準備に取りかかっている。

研修の機会として、是非、多くの先生方の参加をお願いしたい。

特別支援

「一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進」に向けた取組

部長　西村　力

標記の研究テーマに向けて、特別支援教育研究部では各部会毎に次の活動を展開した。

一　知的障害教育部会

(一)特別支援学校と共催の特別支援教育研究協議会を県内五ブロックで開催（約一九〇〇名が参加）

(二)全国特別支援学級設置学校長協会秋季研究協議会茨城大会（土浦市）開催・運営

二　難聴・言語障害教育部会

(一)研究者等を招いた専門研修会を全県及び各地区で開催

(二)研究集録を発刊

三　自閉症・情緒障害教育部会

大学教授等を講師とした専門研修会を県内五ブロックで開催

四　広報啓発部会

ナイスハートふれあいフェスティバル事業により県民の理解を深め、児童生徒の社会参加意欲の高揚を図った。

五　研究調査部会

県内中学校特別支援学級卒業生の進路状況調査を実施し報告書を作成した。

他にグランドモデル（土浦市）等先進的研究が各地で実施された。

情報教育

社会とかかわり情報を適切に活用できる児童生徒の育成

部長　木村　明弘

研究テーマに基づき、次の事業並びに研修を実施した。

一　郡市部長研究協議会

・五月、十一月　教育プラザ

二　情報教育関連事業

(一)県情報教育研究部研修会

十一月二十四日　教育プラザ

・龍ケ崎市立中根台中学校

星野　光信　教諭

・下妻市立千代川中学校

木村　義行　教諭

・校務支援システムについて

義務教育課大芝静香指導主事

(二)関東甲信越放送・視聴覚教育大会神奈川横浜大会

十一月五日　横浜市

・つくば市立竹園東小学校

吉田　浩　教諭

(三)県視聴覚教育振興会への参加

三　統計教育関連事業

・統計グラフ説明会

・指導者講習会

・統計グラフコンクール審査会

県内の児童・生徒・一般から四四五〇点の作品応募

四　放送教育関連事業

・NHK杯全国中学校放送コンテスト茨城大会

六月十日　NHK水戸放送局

県内から十二校が参加

学級経営

生きる力をはぐくむ学級経営

部長　瀧ヶ崎　正彦

研究主題に基づき、次の事業を実施し、研究を深めた。

五月二十五日（火）

・郡市部長会並びに研修会

組織編成、事業計画・予算審議

六月二十九日（火）

・郡市部長・研究推進委員合同研修会

講話「学級経営にかかわる諸問題とその解決に当たって」

茨城県水戸教育事務所

学校教育課主任指導主事兼生徒指導班長　勝村　登先生

・ブロック別研修会

今年度の研修の方向検討

八月～十月

・各ブロック研修会

十一月十八日（木）

・研究発表会（県東ブロック担当）

ブロック代表者による実践発表

秋山中、旭南小、千代田中、川西小、勝田三中

指導講評

茨城県鹿行教育事務所

学校教育課主任指導主事兼生徒指導班長　佐々木孝明先生

二月二十三日（水）

・郡市部長会並びに研修会

平成二十二年度事業・決算報告

次年度の研究推進の方向確認

その他

国語

日常生活や社会生活に生きる確かな言語能力をはぐくむ国語科教育の創造

部長　樋口　隆史

研究主題の具現化に向け、以下の研修を実施した。

一　手作りテスト研修会

（教育プラザいばらき　7/26）

授業に生かすための評価問題の在り方について研修し、学年ブロックごとに問題作成を行った。

二　国語指導者筑波研修会

（つくばホテル青木屋　8/5～8/6）

全十一分科会に分かれて実践報告と研究協議を行った。大内善一先生（茨城大学教授）より「追究と発見、そして遊び心のある国語科授業の創造」という演題でご講演をいただいた。また、浅野尚子先生に、二年間の研究推進の成果を発表していただいた。

三　研究推進委員会

五ブロックから選出された十名の研究推進委員による二年間の実践研究の一年目がスタートした。

四　県芸術祭小中学校美術展覧会

（県民文化センター　11/25～11/30）

美術研究部と協力してできた。

社会

「かかわり」を大切にして「みえる」わかる」子どもが育つ社会科学習の創造

部長　飯島　尚之

研究テーマに基づき、専門委員研修会、郷土教育研修会、ブロック別授業研究会等において研究に取り組んできた。

一　専門委員研修会

(一)期日　八月三日（火）

(二)会場　茨城県立歴史館

(三)内容　研究発表、講師指導

社会科指導法研修会等

二　郷土教育研修会

(一)期日　八月二十日（金）

(二)会場　あずま生涯学習センター

(三)内容　研究発表、講師指導、巡検等

三　ブロック別授業研究会

(一)県東地区

・期日　十一月九日（火）

・会場　神・大野原小学校

神・神栖第二中学校

(二)県南地区

・期日　十一月十九日（金）

・会場　か・佐賀小学校

か・北中学校

指導主事　菊池　哲也　先生

二　学習指導法研究協議会

(一)前期　六月十日（木）

○授業公開　那珂湊第三小学校

那珂湊中学校

○全体会発表（小・中一名）

○講演　国立教育政策研究所

中学校数学学力調査官

清水　宏幸　先生

(二)後期　十一月十日（水）

○授業公開

北茨城市立中郷一小・中郷中

○分科会発表（小六・中四名）

○講演　信州大学教育学部教授

宮崎　樹夫　先生

三　五ブロック別指導法研修会

○研究発表・研究協議

算数・数学

知識・技能の習得や活用を図り、思考力・表現力を育成する指導と評価

部長　林　豊夫

研究主題の一層の具現化に重点をおき、研究・研修に取り組んだ。

一　研究協議会並びに研修会

(一)五月二十日　研究協議

(二)九月九日　グループ協議

(三)一月二十七日　研修会　講話

講師　県教育庁義務教育課

理科

自然との科学的なかかわり合いを深めともに自らの学びを高めていく理科学習

部長　黒澤　雅博

本年度の事業の概要

一　観察・実験実技研修会

（県南地区8/12・県西地区8/12）

二　科学教育自主研修会

（中央・県北・県東地区八月）

三　科学研究・発明工夫作品展

(一)郡市展　九月

(二)地区展・県展への協力

四　関小理茨城大会の開催

(一)期日・会場

平成二十二年十一月十一日・十二日

ホテルレイクビュー水戸

(二)授業公開校（水戸市）
三の丸小・五軒小・新荘小
(三)大会の概要について
○大会参加者総数　六一五名
○大会関係資料の編集
大会誌、学習指導案集、茨城の理科CD、大会記録誌
(四)大会の成果
○全県での研究が推進できた。
○教員の研修に役立てた。
○授業公開校の児童・職員が研究成果を実感できた。

図画工作美術

ひろがり　深まる　確かな創造活動を目指して

部長　関　晃

本年度は、以下の内容で研究主題の具現化を図り、成果をあげた。

一　郡市部長会及び研修会
・期日　五月二十六日
・場所　茨城県近代美術館

二　夏季実技研修会
・期日　八月十一日
・会場　茨城県近代美術館
・講師　大橋　功　先生
（東京未来大学教授）
・内容　色で遊び、色に学ぶ

三　研究調査委員会
・期日　第一回　八月十一日
第二回　二月二十二日
・会場　茨城県近代美術館
・内容　指導要領改訂に向けてのテーマ別研修会

四　県芸術祭小中学校美術展覧会
・会期　十一月二十五日から二十九日まで
・会場　県民文化センター

五　図工・美術部報第四十号の発刊（二月下旬配布）

体育・保健体育

豊かな学びを保証し、運動の特性を踏まえた技能の確実な定着を目指す体育学習の在り方

部長　小林　義治

本年度は、研究主題に迫るために、左記の事業を実施した。

一　郡市部長研修会（五月十八日）
〈内容〉
新学習指導要領を踏まえた体育学習の在り方　体力向上を踏まえた体育経営の在り方
〈講師〉
茨城県教育庁保健体育課
指導主事　山本　一典　先生

二　研究推進委員研修会（六月二十九日）
〈内容〉事業及び研究の進め方

三　体育実技研修会
県東地区（八月六日）
〈内容〉体つくり運動
〈講師〉柳川小　新橋　洋二先生
県南地区（八月十九日）
〈内容〉表現運動・ソフトボール
〈講師〉
筑波西中　小林　恵　先生
牛久一中　唯根　正一　先生

四　授業研究会（十月二十六日）
〈会場〉水戸市立渡里小学校
〈内容〉体つくり運動

学校図書館

豊かな心と自ら学ぶ力を培う学校図書館活動を目指して

部長　小堀　常雄

○学校図書館研究部本年度のあゆみ
一　第一回郡市部長研修会・総会
五月十八日
二　第四十八回茨城県読書感想文コンクール実施、及び第五十六回青少年読書感想文全国コンクールへの参加　審査会開催九月九日　十月一日
三　第三十八回茨城新聞読書感想文コンクール後援（九月）
四　いばらき読書フェスティバル二〇一〇への参加　十月二十一日
五　第二十四回茨城県読書感想画コンクール実施、第二十二回読書感想画中央コンクールへの参加（一月）審査会開催　一月二十日
六　第三十五回冬休み子ども読書感想文コンクールへの参加
七　読書感想文集第四十一号発行（二月末）
八　第二回郡市部長研修会・総会
二月二十四日

生徒指導

規範意識の高揚を目指した積極的生徒指導の在り方
―道徳・特活との連携―

部長　髙野　守

本年度は、県内全小中学校で統一テーマで実践研究に取り組んだ。
十一月の生徒指導研修会では、各地区の代表が、それぞれ自校の積極的生徒指導実践レポートを持ちより全体会、分科会、班別協議を実施した。

一　茨城県生徒指導研修会
(一)期日　平成二十二年十一月十八日（木）
(二)会場　茨城町中央公民館
(三)出席者　県内小中学校生徒指導主事　全三〇五名
(四)分科会
・小学校第一分科会　七十一名
・小学校第二分科会　七十一名
・小学校第三分科会　七十一名
・中学校第一分科会　四十六名
・中学校第二分科会　四十六名
分科会では、代表者の発表後、研究協議を行った。班別協議（六人）では、それぞれが発表し合い、意見交換・協議を行った。最後に分科会ごとに、講師の先生方から講評及び指導助言をいただいた。

学校事務

創意と活力に満ちた特色ある学校教育活動を支える学校事務の在り方

部長　後藤　卓巳

学校を取り巻く環境の急激な変化により、学校の管理運営及び外部対応に係る業務の増大や教員と児童・生徒が向き合い指導に専念する時間の不足等の課題が顕在化している。これらの学校の課題解決に向けて、学校事務の組織運営の改善に取り組んだ。また、次年度に開催予定の県南ブロック学校事務研究協議会を目指し研修と準備を進めてきた。

一　郡市部長研修会
○第一回　五月二十七日
○第二回　二月二十五日

二　各郡市・地区学校事務研究部主催の研修会の開催

三　県南ブロック運営委員研修会
茨城県のテーマを受けて開催
○第一回　六月二十二日
○第二回　九月二十八日
○第三回　十一月十八日
○第四回　一月十八日

四　「学校事務研究部のあゆみ」の作成

キャリア教育

望ましい勤労観、職業観やボランティア精神を育むキャリア教育の在り方

部長　比留間　範之

サブテーマを「小学校段階からの組織的・系統的なキャリア教育の推進を目指して」とし、目的の達成を図るため次の事業を実施し研究を進めた。

一　研究集録の刊行
今年度は、各郡市で行われた研究発表の中から特に優れた実践を各地区一点選び、集録で紹介して指導力向上を図った。

二　県キャリア教育研究発表会
十一月十九日（金）日立市立久慈中学校を会場に開催した。
「生徒一人一人の望ましい職業

観・勤労観を育てるキャリア教育の在り方はどうあるべきか」をテーマに公開授業・研究発表が行われた。

三　県版「中学生活と進路」の編集

茨城県の最新データに更新した指導資料を作成した。

四　調査研究

高校についての情報提供の在り方について調査した。

学校健康

主体的に生きるための学校健康教育の在り方

部長　増渕　誠

本年度は次の四事業を実施した。

一　郡市部長会・研修会　五月

講話「学校健康教育に係る本県の現状と課題」

講師　茨城県教育庁保健体育課指導主事　鈴木拓夫先生

(一)昨年度の事業報告・役員選出

(二)本年度の事業計画・予算審議

二　役員・研究推進委員研修会六月

(一)本年度の組織づくり

(二)今後の研究推進について

三　ブロック別研究協議会　十一月

(一)県北　久慈川日立南交流センター

(二)県南　石岡市中央公民館

四　郡市部長・研究推進委員研修会　一月

講話「薬物乱用の現状と学校教育について」

講師　茨城県警察本部生活安全部少年課　酒井克子先生

(一)本年度の事業の反省とまとめ

(二)次年度の事業の計画と立案

人権教育

人権尊重の精神の涵養を目指す人権教育の推進

部長　高橋　一夫

本年度は研究主題に基づき左記の事業を実施した。

一　郡市部長研修会

(一)第一回（五月）

・演題「学校における人権教育をどのように推進したらよいか」

・講師　茨城県教育庁総務課人権教育室長　櫻井　康雄　先生

(二)第二回（八月）

・研修「人権教育と隠れたカリキュラム」

高橋　一夫　研究部長

・解説「人権啓発資料の活用について」

赤木　信之　研究推進委員長

二　運営会議並びに研究推進合同研修会（七月）

・人権教育推進のための方策について

・人権教育啓発資料「人権コーナー作成事例集CD」の作成

三　人権教育啓発資料「人権コーナー作成事例集CD」の配布

・県内全小中学校、市町村教育委員会に配布（八月）

平成二十二年度　研究大会

理科

第十八回　関東甲信越地区小学校理科教育研究大会茨城大会

「子どもと共につくる新しい時代の理科教育」

平成二十二年十一月十二日、水戸市において関東甲信越地区小学校理科教育研究大会茨城大会が開催された。全体会・分科会の会場となったホテルレイクビュー水戸及び公開授業が行われた水戸市内の三つの小学校に、六百十五名の参加者を迎え、成功裏に研究大会を終了することができた。本大会を振り返り、次の五点にまとめた。

一　大会の概要

○全体会　開会行事、研究経過報告、研究基調の提案

○授業公開　三の丸小、五軒小、新荘小

○分科会　三年～六年、特色ある理科教育の五分科会

二　茨城大会のコンセプト

理科教育研究部では、これまで全県的な研究主題のもとで主に市町村単位で研究を推進してきた。しかし、平成十八年度に、関小理茨城大会に向けて新たな研究システムを構築した。

それは、県下の小学校が共通のねらいで研究を推進し、研究の成果を共有して日常の授業にフィードバックできることをねらったものであった。

本研究部では、本県の学力診断のためのテストの分析を基に課題を設定し、課題解決のための授業研究を蓄積し、その成果を共有するという方法で研究を進めた。従って、関小理茨城大会はその研究の延長線上に位置付けた大会であるといえる。

それにより、小学校理科教育の更なる充実を図るとともに、子どもの主体的な活動を支える教師を育て、理科教育を通して「生きる力」をはぐくみ、新しい時代の理科教育に対する課題解決の契機にしたいと考えた。

三　大会運営上の改善

大会開催のねらいは、教員の研修にあることを基に、本大会では次の改善を図った。

一つ目は、全体会の文部科学省講演を前年に移行して実施し二年間を一つのスパンとして研究を行うことにより、教員の研修の機会の確保に努めたこと。

二つ目は、分科会の時間を十分に確保して参加者が情報の共有をしやすくしたことである。

一方、運営面では、県内五地区で担当を分担し、運営部長と運営委員が、創造的に全県で大会運営に当たったことが成功の大きな要因となった。

四　研究推進上の工夫

本大会では、五地区を学年別に分けて研究を行った。その際研究推進に大きな役割を果たしたのは、研究推進委員及び研究実践委員であった。研究推進部と連携し、各地区の研究の方向付けを行い、研究実践を推進し、研究成果を集約し、県全体のまとめに尽力した。

さらに、研究推進委員は授業公開校との研究協議や指導案検討会でも成果をあげた。

五　成果と課題

○理科教育研究部のテーマに基づいて、全県で研究推進ができ、毎年の研究成果をまとめて全校に提供できた。

○大会運営の改善により、教員の研修に資する大会となったという評価が得られた。

○研究推進と授業公開を行った各小学校では、児童及び教職員が、研究成果を実感できる評価が得られた。

○平成二十六年度の関中理茨城大会に向けて、研究推進と大会運営の見通しがもてた。

○県教育研究会のWebページ等の活用による大会運営の効率化を図りたい。

道徳の授業（笠間市立東中学校）

平成22年度 郡市支部の研究活動と次年度の構想

水戸　根本　福雄

本年度、三つの研究目標及び六つの重点を設定し、着実に研究を推進してきた。本会には二十五の研究部があり、各部会毎に授業研究会、音楽のつどい、陸上記録会等研修の充実を図ってきた。八月十七日には、研究発表大会が十八分科会、十三会場で会員千人強を集めて盛大に開催され、活発な協議が行われ成功裡に終了できた。

笠間　藤枝　欽也

笠間支部の本年度の研究活動は学校の教育力、教師の力量を高め児童生徒の「生きる力」をはぐくむとした新学習指導要領の基本理念の実現を目指すとともに、家庭や地域社会の信頼と期待に応えるべく、組織をあげて研究実践に取り組んでまいりました。

次年度も引き続き、生きる力の育成に取り組んでまいります。

ひたちなか　大津　勝男

本年度は、二十三研究部での研修会・授業研究会をはじめ、夏季研究協議会、小中学校音楽会、文集「ひたちなか」の発行など、多彩な事業を推進してきた。

新小学校学習指導要領の実施に向け、各教科の指導と評価の整備並びに保護者向けリーフレットの作成に着手した。来年度は、中学校分の作成に取り組んでいく。

常陸大宮　内田　寛

○本年度の主な活動
・教育研究集会
・教育講演会
・市教研指定校公開授業
・小中学校音楽会
・広報誌「清流」の発行
・業務の軽量化と自己研鑽

○次年度の構想
常陸大宮市教育研究会の更なる発展と充実。

那珂市　秋山喜実夫

本会は、二十三教科研究部と三経営研修部で、組織的かつ主体的な研究活動を進めてきた。また、市研究指定校二校の発表、教育研究集会の開催、市文化祭との共催事業（美術作品の展示）等、積極的に事業を展開し、大きな成果をあげることができた。

次年度は、今年度の成果を生かし、一層の充実を図っていきたい。

小美玉市　小林　義治

各専門部、研究部、幼・小・中学校のそれぞれが自主的な研究を推進してきた。八研究部による研究発表会、会報の発行、教育論文募集、研究紀要の発刊と続いた事業も、本年度から新たに開催する教育振興大会をもってまとめとなる。次年度は、小学校の新学習指導要領全面実施年にふさわしい教育活動を推進していきたい。

東茨城　寺門　秀雄

本年度は二十三研究部と一専門委員会が研究の重点を踏まえ、各種研修会や夏季研究発表大会を実施した。また、三町の教育研究会と連携して授業研究会を実施し、授業力の向上に努めた。

次年度は城里町の小学校が再編され、郡内小中学校は二十六校となる。事業内容の改善に努め、研修の充実発展を図りたい。

那珂郡　仁平　勇

児童生徒の「生きる力」の育成と教職員の「資質能力の向上」を目的に、二十三の研究部が実践的な研究を推進してきた。特に、九の重点部会が研究発表を行う研究集会や研究指定校（白方小）による研究発表及び協議・講演等では多大な成果を収めることができた。

次年度も研修の充実を図り、会員の資質能力の向上を目指したい。

大子地区　吉澤　幸夫

本年度は、二十三の研究部が研究の重点を踏まえ、各種研修会や講演会などを積極的に実施した。

また、地区教育研究集会での六研究部の発表や地区研究指定校の依上小の完結発表、町教育委員会と共催の初任者研修等を通し、多くの成果を収めることができた。

次年度も、研修の充実発展を図り、会員の資質向上を目指したい。

日立　細谷　茂

各研究部、特別委員会の着実な活動の充実が図られ、学力向上のための小中連携の推進、ホームページへの実践事例集の立ち上げ、市イントラメールの活用による業務の軽量化、教育論文募集期間等の変更など、成果を収めた。

次年度は、新学習指導要領の全面実施に向けた研修の充実と会員の資質の向上に努めたい。

常陸太田　深作　敏明

本年度は、教育課程の移行措置を踏まえ、子どもと向き合う時間を確保しつつ、重点研究部を中心に実践研究に努めてきた。本部事業としても、十研究部の研究発表会、研究論文募集等を実施し、多くの成果を収めることができた。

次年度に向けて、活動方針を見直すと共に、業務の改善を図りながら充実・発展を期したい。

高萩　菊池　繁

二十三の研究部が研究の重点を踏まえ、各種研修会や研究発表会

講演会を実施した。教育論文募集、北・高合同教研発表会も実施し、大きな成果を収めることができた。

現在、各会員が校内授業研に取り組み、授業力の向上に努めている。

次年度に向けて、本年度の課題解決を目指し、よりよい教育研究会となるよう充実を図りたい。

北茨城　沼田　昇平

今年度は、自分たちの会を見直し、子どもと向き合う時間の確保を目指した研究会活動の軽量化への挑戦の年であった。計画された行事は工夫し充実した展開になった。その中で、会員相互の協力・共同活動が疎くなるのではとの心配もあるが、会議回数削減、研修会充実のための工夫で奮闘。

次年度も、研修活動の充実に努め、更なる資質の向上を目指す。

鹿嶋　本田　敏尋

テーマをふまえ各校の実態に応じた研究を推進し成果の共有化に努めてきた。これまでの年二回の発表会を本年度は休業中の同日にまとめ、授業時数の確保に努めた。

○教育研究発表会　八月五日
三校及び個人・グループの発表
○紀要発行（各校の成果）二月末

次年度は、「学びの力の育成」をめざし実践的研究を教育委員会と連携し、十七校で推進していく。

神栖　谷田川　勇

業務軽量化という視点で、最小の負担で最大の効果をあげるべく研究活動に取り組んできた。

スクラップ・アンド・ビルドと言われるが、延々と引き継がれ、実施してきた事柄をスクラップすることは、容易ではない。しかし、子どもと向き合う時間確保のため信念と勇気をもって鋭意断行していかなければならない。

鉾田　遠峰　功

「学力の向上」「幼小中連携」「自主的・実践的研究活動」「教育実践重点校の設定」を研究の重点とし、業務の軽量化を見据えた中で研究活動を進めてきた。

特に今年度は、諏訪小学校の柔道指導、鉾田小学校・鉾田南中学校の学力向上実践研究をはじめ、市内二幼稚園十小学校二中学校において保育・授業参観を実施した。

行方地区　橋本　清一

会の目的達成と業務の軽量化の視点で見直しを図ってきた結果、各部とも本年度の目標を達成しつつある程度スリム化も図られた。

次年度は、地区として活動するメリット・デメリットを再検証し、教職員の資質の向上と教育の遂行が一層図れるよう、組織としての望ましい在り方を検討する年度としたい。

土浦　小島　実

確かな学力と豊かな心を育む教育の展開に努める「土浦市園・学校教育目標」の実現を目指し、八月に全員研究協議会と教育展望セミナーへの教員派遣を、二月には土浦市教育総会における優秀論文の発表を実施した。次年度は、小（中）学校新学習指導要領の全面実施を踏まえ、学力向上を中心に据えた指導法の改善に努めたい。

石岡　櫻井　信

「生きる力の育成」「教職員の資質・能力の向上」を目指し、各研究部研修会、研究発表会、研究指定校発表会（小四校、中二校）、教育論文発表会等の研究活動を実施した。この中で、新学習指導要領移行への成果が上がった。

次年度は、小学校での新学習指導要領全面実施を踏まえ、各事業が一層充実するよう努めたい。

龍ケ崎　糸賀　勝示

本年度で研究指定校（大宮小、久保台小）の研究発表会を最後とした。これは業務の軽量化の一つの施策である。小中連携の基盤があり、市教委と連携した中で計画訪問等の際、他校への授業公開をとっているからこそ、とれた施策であると考える。この施策が本会の停滞につながらない工夫、改善が次年度の課題である。

取手　宮崎　範子

今年度は、目標「知性に富み心身ともに健康な気品をそなえた児童生徒の育成」の達成と業務の軽量化の二つの視点で取り組んできた。二十三の研究部で一斉研修・授業研究を進め、先進地研修視察・各種事業なども充実して展開実施できた。また、市教育委員会と連携して授業力向上のための研修会も進めている。

牛久　柴山　光

本年度は、二校の指定研究発表会を実施し、多大なる成果を収めることができた。

○牛久第二中学校テーマ「知的につながり合う関係を生かした思考力・表現力の育成」（全教科）10/20実施
○牛久第二小学校テーマ「人やものと関わり合いながら、算数的な表現力を高め合う指導の工夫」（算数科）11/5実施

つくば　坂場　治

本会は代議員制の教研総会に始まり、教研連発表集会、研究指定園・学校の研究奨励援助、教育論文募集・発表会と順調に活動を展開した。各部会では各種講習会、児童生徒の発表会、作品展、文集の発行等の事業を実施した。

次年度は教研連発表集会を教育研究発表会として新たに展開し、研修方法も改善する予定である。

守谷　倉持みち代

「新しい時代に対応し、たくましく生きる力を育む教育実践の在り方」をテーマに、実践研究を推進した。主な事業として、夏季一斉研修、指定研究発表会（大野小、御所ケ丘中）、市独自の基礎学力テスト等を実施した。

次年度も業務の軽量化を意識しながら、今年度の反省を生かして活動の充実を図りたい。

稲敷市　坂本　忠次

本会は、「生きる力のある園児・児童・生徒の育成」をテーマに、教育講演会や研究委嘱校の発表、教育論文の募集などを通して、会員の指導力向上を目指してきた。特に教育論文発表会では、優秀論文四編の発表を通して、全会員が有意義な研修をすることができた。

次年度も、今年度の反省を生かして一層の充実を図っていきたい。

かすみがうら　木川　正則

昨年度に引き続き「新教育課程の全面実施に向けた準備の徹底」

を研究の重点に据えて活動を進めてきた。

七つの分科会での教育研究発表会や研究指定校での発表会、教育論文の募集・発表会など実践的な研究を通して、会員相互の研修を深め成果を上げることができた。

次年度は、各研究部の研修会の持ち方など検討していきたい。

つくばみらい　廣瀬　一峰

一　平成二十二年度の研究活動

○市教研総会（代表）
○各研究部研修会（24部会）
○教研連発表会（6分科会）
○教育講演会
○研究委嘱校発表会
・板橋小学校　・谷原小学校
○市児童生徒文集ひばり発行

二　次年度の構想

保幼・小・中の連携の推進

稲敷郡　荒木　隆史

今年度は、「個性と創造性に富み、豊かな心をもち、たくましく生きる児童生徒の育成」をテーマに、各研究部での計画的な実践研究をもとに、研究発表会や講習会等を実施してきた。研究委嘱校の発表では、新教育課程を見据えた研究の成果を公開し、会員相互に研修を深めることができた。

次年度も、各事業の充実を図り、会員の資質向上に努めたい。

北相馬　海老原　満

研究主題「心豊かにたくましく生きる児童生徒の育成をめざして」を継続し、四校七十四人が協力し、二十三部会を運営し、成果をあげました。特に、移動巡回児童生徒芸術劇場「楽しいオペラ教室」は、大好評でした。

小さな町の良さを生かし、町長さんはじめ町議会文教委員さん、教育委員さん等からの御支援をいただき、めざす子どもを育てます。

古河　飯島　稔

本年度は新学習指導要領の内容・趣旨、移行措置期間における教育課程編成を踏まえ、研究推進してきた。研究指定校における授業公開では、各校の研究意図を明確にした発表を行った。各研究部では、長期休業期間に活動の中心を置き、内容の充実を図った。

次年度は、組織を充実させ、更なる事業の改善を図りたい。

結城市　鶴見　貞雄

「豊かな心をもち、たくましく生きる子どもの育成を図る」ことを目標に、二十三の研究部が当初の計画に従って活動の効率化・業務の軽量化を図りながら、実践を進めてきた。その成果と課題は『結城の教育』として結実し、年度末に全会員で共有することができた。

次年度、その成果と課題を生かし、活動の充実を図っていきたい。

下妻　中島　豊起

新学習指導要領全面実施に向け、研究の重点化を図るとともに、各種事業の充実に努めた。特に、市研究推進校における授業研究、市教育論文募集等においては、市教育委員会指導課との連携が図られ、会員の授業力の向上に資することができた。

次年度も、事業の重点化に努めるとともに、活動の充実を図りたい。

常総　山口　大

研究会総会を代議員会に変えることに始まり、業務全般の改善と効率化を強く意識した今年度の活動でした。スリム化を図りながらも、会員の研究と研修を深めることを大事にする姿勢を軸に、活動を進めてきました。

次年度は、教育委員会との連携をより密接にし、授業公開の枠を広げる活動を計画しています。

筑西　古川　久司

本年度は、新学習指導要領の実施を踏まえ、各研究部毎の実践研究や、小学校二校、中学校一校の研究指定校を中核に授業研究に取り組んできた。また、新たに小中連携研究部を研究組織に位置付け、七中学校区毎に、地域の実態に応じた実践に取り組んできた。

来年度は、新学習指導要領の趣旨に沿った教育課程の円滑な実施に、引き続き取り組んでいきたい。

坂東　中山信一郎

本年度は、新学習指導要領の趣旨・内容、移行措置期間における教育課程の編成を踏まえて、研究に取り組んできた。研究指定校二校の授業公開や協議は、会員相互の研修を深めるものとなった。また、各研究部では、業務の軽量化を図りながら、充実した研修会を実施し、目標達成に努めた。

次年度は、「学び合い」の学習を中心に、実践研究を深めたい。

桜川　安達　利明

会員の資質能力の向上と児童生徒の知・徳・体の調和の取れた人間形成を図る教育を目指し、研究活動を進めてきた。主な事業としては、各研究部活動を中心に、研究指定校の発表（三校）、教育講演会、教育論文の募集、児童生徒の各種発表会や作品展等充実した活動を進めてきた。成果を踏まえ、次年度更に充実発展を図りたい。

結城郡　鈴木　享

一　本年度の研究活動

(一)学力向上事業の推進
・授業研究発表会（指定校）
・学テ等の分析と対策
・読書活動の推進
(二)教育論文の募集
(三)各種研修会の実施
(四)実践報告会の開催

二　次年度の構想

自ら学び豊かな心をもつ児童生徒の育成を進めたい。

猿島郡　櫻井　研一

本年度は、学力向上と豊かな心の育成に絞って進めてきた。主な事業としては、各研究部ごとの研修と主催事業の継続研修で、論文研修、作品展、陸上記録会、音楽会等児童生徒に関する実践と地域と一体となる科学教育に関する実践を取り組み、成果もあった。

次年度も今年度の実践を基に、更に充実した研究課題としたい。

茨大附属　金子　一夫

各学校が次の研究主題で研究に取り組み、公開授業研究会を開いた。

附属小学校：「『自分づくり』を支える教育活動の創造」附属中学校：「自ら学びを切り拓く生徒の育成をめざす授業づくり―思考力・判断力・表現力を伸ばす手立てが見える授業」特別支援学校：「特別支援教育（知的障害）におけるキャリア教育の在り方」

専門委員会

平成22年度のまとめ

教育論文委員会
倉持　みち代

第四十五回教育論文募集に取り組み、左記のような結果になりました。

一　**応募総数**　二四九点
　個人研究　二一四点
　共同研究　三五点

二　**審査結果（入賞）**
　(一)優秀賞　五点
　県知事賞　堀邉　英明（常総市立水海道中学校）
　県議会議長賞　横瀬　郁子（八千代町立下結城小学校）
　県教育長賞　森　浩美（美浦村立木原小学校）
　同　正木　啓道（日立市立多賀中学校）
　同　栗山美智子（河内町立生板小学校）
　(二)優良賞　二三点
　(三)佳作　二四点

三　**表彰式・発表会**
　二月二日　県教育振興大会

四　**教育論文集の刊行**
　(一)研究紀要第四八集
　(二)研究論文集第四五集
　本年度は、過去最多の二四九点の応募がありました。特に、国語、算数・数学への応募が多数あり、基礎学力の定着と活用能力の向上に真摯に取り組まれている様子がうかがえました。茨城の教育を支えている先生方の熱意とご努力に心から敬意を表します。これから、本論文集が発刊されます。各校におかれましては、十分ご活用くださいますようお願いいたします。

学力調査委員会
樋口　隆史

本年度も本県の児童生徒の基礎的な学力の定着度合いを計り、その結果の分析を行い、指導上の課題を明らかにするとともに、各校における個に応じた指導法の工夫や改善に役立てるために取り組んでまいりました。

『学力診断のためのテスト』
（小学三年生～中学三年生）
四月十五日・十六日に実施
県教育委員会と県教育研究会の共催により実施

『総合学力診断のためのテスト』
（中学三年生）
十一月四日に実施
問題作成に関しては、基礎的・基本的な学習内容の定着状況の把握と活用力を診る、思考力・判断力を問う設問等を工夫しました。
各校におかれましては、「学力診断のためのテストの結果からみた指導上の問題点とその改善策」、及び「総合学力診断のためのテストの結果からみた指導上の問題点とその改善策」が、個に応じた指導の充実に生かされ、指導法の工夫と改善に役立てられていることと思います。
本委員会では、こうした診断のためのテストのねらいをさらに生かす工夫をするために、実施時期の在り方を中心にして改善を図ってまいりました。平成二十三年度以降の「学力診断のためのテスト」実施要項に関しては、県教育研究会のホームページをご覧ください。

へき地・小規模校特別委員会
潮田　朱美

平成二十四年度に、関甲信へき地教育茨城大会をひかえ、へき地・小規模校教育の充実に向けた取組を以下の通り行った。

一　**郡市委員長研修会（年二回）**
二　**小さな学校の教育研修会**
　○期日　八月十一日（水）
　○会場　教育プラザいばらき
　○関甲信へき地教育新潟大会の発表者による提案（下妻市立蚕飼小・石塚邦彦教諭）と小規模校の特色ある教育活動や学習指導の深化・充実をめざした研究協議を行う。
三　**関甲信へき地教育茨城大会実行委員会（全体会三回）**
四　**全国へき地教育研究大会**
　（十月二十日～二十二日）
　広島県に三名参加
五　**関甲信へき地教育研究大会**
　（十一月十一日～十二日）
　新潟県に十九名参加
六　**関ブロ代表者会議（年二回）**

業務の軽量化検討委員会
石井　誠二

一　**本年度の検討方針**
　県教育研究会の推進方策等について検討し、業務の軽量化・効率化を進め、学校教育活動の充実を図る。
二　**検討内容**
　(一)各研究部の業務軽量化対策等の調査を実施した。活動内容の質の向上を図ることが課題である。
　(二)各専門委員会の業務軽量化対策等の調査を実施した。E－mailやFAXの活用を図るとともにWebページの効果的な運用が課題である。
　(三)各支部の業務軽量化対策等の調査を実施した。改善計画に従って効率的な実施が求められる。
三　**本年度のまとめ**
　検討委員会を三回開催し、前記二について最終報告を提出した。

会報・紀要委員会
岩田　伸子

本年度の編集方針のもと、本委員会の事業を無事推進することができました。
玉稿をお寄せくださいました諸先輩の皆様、本研究会役員の皆様、各郡市部長様および各研究部長様を始め、会員の皆様に心より感謝申し上げます。

一　**会報の発行**
　(一)第一五三号（七月十五日）
　「本年度の事業計画」
　講演「自己を見つめ、考える心を育てる」
　(二)第一四号（十月四日）
　「座談会」「先輩からの提言」
　(三)第一五五号（二月二十三日）
　「県外派遣研修報告」
　「本年度の事業反省」
二　**研究紀要の発刊（三月十六日）**
　教育論文優秀賞（全文）と優良賞（概要）の掲載
　今後、Webページへの掲載を推進していきます。

好文亭
―文芸欄―

〈俳句〉

飛び立たむ

坂東市立内野山小学校　栃木　恵津子

寒明や兎のゐない兎小屋
児を諭すこゑおだやかに春立ちぬ
春寒し鉛筆のみな研ぎ揃へ
ぶらんこが揺れて小学校の庭
卒業歌一人の教師日暮りて
何よりも制服似合ひ卒業す
髪切りて卒業の空広くする
堂々と夢を語りて卒業す
凧高く揚がり手応へだけの糸
鷹鳩と化して分教場の庭
個々に違ふ音する春の土鈴かな
白木蓮幾十の鳥飛び立たむ

高萩市立高萩小学校　久保田　ゆかり

白雪の　粉舞いおりる　児童（こら）の顔
こだまする　おはよう笑顔と　白い息
冬の陽を　浴びてもとけぬ　山の雪

高萩市立君田小学校　大髙　美枝子

淡雪の　舞ひて流るる　清水かな
早春や　水辺をとびたつ　鵜がひとつ

高萩市立君田中学校　遠藤　直美

旅立ちに　エールを送る　桜の木

高萩市立高萩中学校　須田　潤子

たつご山　昔をしのぶ　雪景色

高萩市立松岡中学校　小堀　隆弘

日を浴びて　校舎の隅の　雪だるま

高萩市立秋山中学校　菊地　淳

〈短歌〉

北風に　負けじと響く　ラッパの音
　いつか輝く　ステージ夢見て

小美玉市立美野里中学校　田山　恵子

高らかに　声をあげつつ　滑りゆく
　生徒らの姿　白銀に消ゆ

同　樋田　美穂

はぁはぁと　吐く息白く　さようなら
　夜空に開ける　明日への扉

同　木野内　正樹

白シャツに　萌葱（もえぎ）のセーター
　重ね着で　今日の私は　長ネギである

同　益谷　香央理

巣立ち日の　記念を共に　堀り起こす
　二十歳の顔に　あの日の笑顔

同　持丸　正美

富士見える　高台に立ち　喜びを
かみしめる日も　あとわずかかな

行方市立麻生中学校　佐々木　秀子

麻中生　生きる君らの　中心点
　学びし思い出　校舎が語る

同　坂本　知恵美

夕日浴び　自転車を押し　丘下る
　真っ赤に染まった　湖眺めて

同　川島　盛寿

朝日差す　凍てつく冬の　校庭に
　ランニングの声　今日が始まる

同　五十野　猛

翠松の　丘に輝く　霞浦
　学びし子らの　笑顔が揺れる

同　森作　宜民

寒風に　昔想いて　走り出す
　心逸（こころはや）れど　脚は動かず

つくば市立吾妻中学校　山田　智久

〈詩〉

継走

利根町立布川小学校　黒田　雅己

先輩たちからの襷を受け継ぎ
学校代表の白覚を胸に走り出す
六年生の春

夏の日差し残る中
真っ黒な顔に大粒の汗
必死に全力を振りしぼる
歓喜と悔し涙の運動会

見知らぬ土地を旅して気付く
地図と友の存在の大きさ
秋富士見守る修学旅行
失敗も成功も子どもたちを磨く

頬を真っ赤に染め
自分のためチームのため
真剣な目で練習を繰り返す
冬の持久走そして縄跳び記録会

もうすぐまた中継所がやって来る
白銀の　山への想いに　充ち満ちて
　車窓曇らせ　バス走りゆく

同　小野　尚文

川陣の　明日の勝利を　誓う声
　校舎に木霊（こだま）し　皆に返り降る

真っ白な　未来という名の　画用紙に
　鮮やかになれと　色塗る子らよ

同　塚崎　浩子

別の道　歩んでいても　通じ合う
　同窓の友　勇気のもとなり

◆◆編集後記◆◆

平成二十二年度も気が付けば残すところ一か月となりました。今回は今年度最終号となりますので、各郡市支部、各研究部での取組など、各年度のまとめとなるよう編集しました。

今号の内容は「学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた特色ある教育課程の評価及び改善」というテーマのもと、特集として「本年度の事業の反省、県外派遣研修報告」も掲載させていただきました。また、理科の関プロ報告も掲載してあります。

今号がそれぞれの学校における取組の参考となり、多少でも次年度へ生かしていただければ幸いです。

第一五五号は、正副委員長と次の担当者が編集に当たりました。

◎森　聡子（水・梅が丘小）
○海藤有紀枝（水・石川小）
　会沢みどり（水・酒門小）
　井上由美子（木・稲荷一小）
　安島　州平（水・国田中）
　古山　芳枝（水・寿小）
　前川　美和（水・柳河小）

ご多用のところ、原稿をお寄せいただきました皆様に、心よりお礼申し上げます。